

分科会18

家族による家族学習会

横山恵子（埼玉県立大学）
柏木彰（横浜市精神障害者家族連合会）
貫井信夫（千葉市ファーム栗の木家族会）
井上光（稲城市稲穂会）
井汲悦子（横浜市さかえ会）
植田美智子（横浜市あじさいの会）

2007年度から取り組みの始まった家族学習会は、7年目を迎え、今年度は東北から九州まで50か所以上の家族会が実施予定で、全国への普及を目指しています。この分科会には50名ほどが参加してくださいました。参加者の内訳は、ご家族が7割、支援者が3割で、流れは以下のとおりです。

■ あいさつ・企画趣旨・演者自己紹介（約10分）

■ 家族学習会の説明（約35分）

・柏木さんが「家族学習会の推移」と横浜市精神障害者家族連合会での5年間の取り組みの状況をお話してくださいました。また、井上さんが「家族学習会とは」、植田さんが担当者としての「家族学習会の体験」をお話してくださいました。実施回数を重ねるごとに達成感が大きくなり、家族学習会はこれからの家族会活動の要であり、家族会を活性化させる大きな力になるだろうと話していました。

■ 家族学習会のデモンストレーション（約60分）

- ・会場から参加して下さる家族を6名募りました。
- ・講師の5名のご家族が担当者役になり、井汲さんがリーダー、その他の方がコリーダーとなり、家族学習会の一部をデモとして行ってくださいました。
- ・テキストを輪読し、病気や生活での対処に役立つ情報を共有した後、その内容に関して、お互いの体験を自由に語り合いました。
- ・担当者は参加者の悩みや辛さに共感すると共に、家族として頑張っている生活上の対処や工夫に注目し、それを伝えていました。
- ・家族同士の支え合いの中で、参加者は元気を取り戻し、担当者も多くのことを学び、互いが力を得ることが分かりました。参加者の方々が、自由に思いを語られ、終了後にはとてもさわやかな表情をされていたのが印象的でした。

■ 専門家の役割（約10分）

・家族学習会での「支援者の役割」について、貫井さんがこれまでの体験をお話してくださいました。家族学習会の主役はあくまで家族だということを認識し、家族と同じ立場で協力し、家族が持っている力を引き出せる支援者になってほしいと話していました。

■ 質疑・ディスカッション（約20分）

・家族学習会を実施してみたいというご家族や支援者から多くの質問があり、関心の高さを感じました。家族学習会は、家族自身のリカバリーのきっかけとなる取り組みであることを改めて実感できました。

最後に、兄弟姉妹の会の家族学習会のご案内があり、終了となりました。

《横山恵子（埼玉県立大学）》